

# ダンプナ取扱説明書

株式会社 大成トータル

## 目 次

	ページ
1. まえがき .....	3
2. 用 途 .....	3
3. 仕 様 .....	4
4. 取り付け .....	4
5. 操作・調整 .....	5
6. 構 造 .....	5
7. 保守・管理 .....	6

## 1. まえがき

### [ ご使用に際して ]

ダンプナを正しく有効にお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読み下さい。  
尚、この取扱説明書は弊社のダンプナの取扱いについて記載してありますが、全てを網羅するものではありませんので、この取扱説明書以外の事項につきましては、弊社までお問い合わせ下さい。

### [ 製品の保証について ]

保証期間内（お客様納入日より1年間）の納入品が、「弊社設計または製造上の不良等」による不適合品と判断された場合、無償にて修理、あるいは適合品との交換を致します。但し、以下に示す事項は除外されますのであらかじめご了承下さい。

- (1) 納入品がお客様自身若しくは弊社以外の第三者による分解、改造、部品交換、あるいは機能付加された場合。
- (2) 取扱説明書またはカタログに記載された事項が遵守されなかった場合。
- (3) 使用による劣化、天災、火災、その他不可抗力によるもの。
- (4) 上記を含む製品の故障または損傷等により発生した二次的損害。

尚、お客様による取扱不備の認識の有無に関わらず、部品の変形、摩耗、焼損等明白な痕跡が認められた場合は、保証範囲より除外し、有償対象とさせていただきますのでご了承下さい。

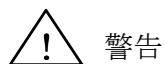
### [ 安全用語の定義 ]

本書における安全上の注意事項について、次の定義により区分しています。



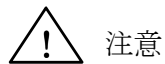
危険

回避しないと、死亡または重傷を招く切迫した危険な状況の発生が予見される場合。



警告

回避しないと、死亡または傷害を招く可能性がある危険な状況の発生が予見される場合。



注意

回避しないと、物的損傷が発生したり計器の性能が発揮できないような状態が予見される場合。

## 2. 用途

ダンプナは、オリフィス効果を利用して瞬間過大圧や脈動圧を緩和する緩衝装置（脈動防止用圧力計継手）であり、圧力源から圧力計までの途中、通常は圧力計の直前に取付けて脈動圧を緩和して圧力計などを保護する為に使用します。

### 3. 仕様

	ダンブナ
材 質	真鍮製 (C3604BD、SUSC304、PTFE)
最高使用圧力	20MPa
耐圧試験圧力	30MPa
使用液体温度	-5 ~ +80℃
使用流体	液状 (但し、腐食させる液体、高粘度は不可)
質 量	約 0.20kg



#### 警告

- ・ 最高使用圧力以上の圧力を加えないで下さい。  
ダンブナが破損または破裂し、けがや周囲を破壊する原因となります。
- ・ 接液部材を腐食・劣化させる測定体には使用しないで下さい。  
ダンブナが破損または破裂し、測定体が放出することにより けがや周囲を破壊する原因となります。
- ・ 使用温度範囲内でご使用下さい。  
使用温度範囲外で使用されますとダンブナが故障または破損し、けがや周囲を破壊する原因となります。



#### 注意

- ・ 流体に金属粉、ゴミなどが混入しているとダンブナが故障または破損し、けがや周囲を破壊する原因となります。

### 4. 取り付け

- (1) ダンブナの配管側を配管(圧力源)に取り付けて、圧力計側に直接圧力計等を取付けて下さい。  
(6. 構造を御参照下さい。)  
シール部には用途にあったパッキンを使用し、またテーパネジの場合はシールテープ等を巻いてシールさせて下さい。

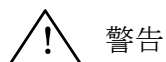


#### 警告

- ・ シールが不十分ですと、ダンブナが外れたり、測定体が突出して けがや周囲を破壊する原因となります。

## 5. 操作・調整

- (1) ダンプナの調整ネジは右回転で「閉」、左回転で「開」となります。



### 警告

- ・ 圧力が掛かったまま調整ネジを必要以上に緩め過ぎると調整ネジが飛び出し、測定体が放出することにより けがや周囲を破壊する原因となります。

- (2) ダンプナの絞り量の調整は、マイナスドライバーで調整ネジを右方向に回転させ、一旦全閉しておき圧力計の指示の振れ具合を見ながら調整ネジを徐々に左方向に回して調整して下さい。



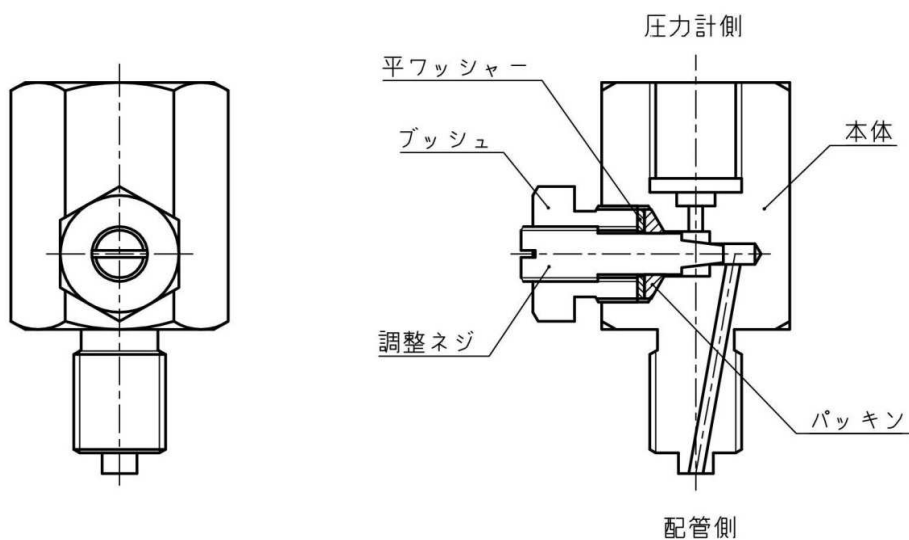
### 注意

- ・ 指針の振れが完全に止まる状態まで絞りますと正確な圧力測定ができません。指針の振れが僅かに残る程度に調整して下さい。

- (2) 絞り量の調整操作は、圧力計に実際の圧力が作用している状態で行って下さい。

## 6. 構造

概略構造は下図の通りです。



### 注意

- ・ ダンプナは絞り機能を有するもので、バルブのように流体を完全に止めるものではありません。

## 7. 保守・管理

- (1) 接続部から漏れが生じた場合は、増し締めして下さい。  
増し締めしても漏れが止まらない場合はパッキンを交換して下さい。
- (2) 調整ネジのパッキン部から漏れが生じた場合は、ブッシュを増し締めして下さい。  
この時、再度絞り程度の確認をして下さい。
- (3) 絞り部にゴミ等が詰まって圧力計が作動しなくなる事があります。  
その場合は、調整ネジを左回転させゴミを取り除き、再度絞り程度を調整して下さい。
- (4) 接続部および調整ネジより漏れが止まらない場合や故障の際は、弊社営業部までご連絡下さい。